

添付：WTOに関する ABAC ステートメント

WTO：持続可能な繁栄と包摂的成長の基盤

世界貿易機関（WTO）とその前身である関税及び貿易に関する一般協定（GATT: General Agreement on Tariffs and Trade）は、70年以上にわたる世界の繁栄をもたらす一要素となった多角的貿易ルール体制を確立・維持し、企業、地域社会、途上国を含む各国・地域にダイナミックな成長機会を生み出してきました。WTOのルールによって保護主義的な障壁や国内措置による市場の歪みが削減されることで、企業は世界中の市場で安心して、より低いコストで取引と事業を行うことができます。拘束力のある紛争処理を通じた貿易ルールの実施によって、事業計画、事業活動、投資にとって不可欠な確実性は相当程度、確保されてきました。さらに、WTOは、貿易の拡大、経済成長、雇用創出を促し、世界中の貧困削減にも寄与してきました。

WTO体制が提供する利益は、その権威と有効性によってもたらされるものです。同体制が少しでも弱体化するようなことがあれば、それは深刻な問題です。市場アクセスが予測不可能になり、WTOにおける約束が守られず、市場が不安定化し、バリューチェーンに支障をきたすようなことになれば、企業や投資家の信頼が損なわれることとなります。貿易紛争が独立したルールに基づく仲裁によって解決されない世界の行く末は、非常に憂慮すべきものとなるでしょう。そのような行動は不確実性を高め、企業を包摂性と強靭性に乏しいビジネス・モデルに導くこととなり、質の高い雇用を生み出しにくくなるでしょう。

とはいえ、前身であるGATTを引き継ぎ、その発足から合わせて70年以上になる現行のWTO体制は、急速に変化するグローバル経済についていけていないと、アジア太平洋地域の経済界は認識しています。WTOの司法機能、立法機能、行政機能はさまざまな面において改革を必要としています。例えば、以下が含まれます。

- われわれは、各加盟国・地域に、WTO上級委員会委員任命問題に早急に対処するよう要請します。WTOの紛争処理メカニズムが有効に機能するためには、2019年12月までに上級委員会の欠員がすべて補充されなければなりません。APECビジネス諮問委員会（ABAC: APEC Business Advisory Council）は、WTO加盟国・地域間で紛争処理制度を有効に機能させるための改革が議論されていることを歓迎します。
- ドーハ・ラウンドの積み残し課題は、農業、サービス、ルール分野の交渉再開を通じて対処されるべきです。
- WTO加盟国・地域は、政策とその実践における透明性に関する義務を尊重し、長期にわたる不履行に対する説明責任を直ちに問われるべきです。
- 経済界は、電子商取引の貿易関連側面に関する交渉など、WTOのルールに21世紀の経済モデルと企業の懸念をより適切に反映させようとするWTOのイニシアティブを歓迎します。ABACは、サプライチェーンの連結性やデジタル経済に関する問題について、このプロセスに有益な情報を提

供すると思われる広範な検討を手掛けてきました。

- WTO加盟国・地域は、ABACの「非関税措置に関するWTO整合的な分野横断的原則 (Cross-Cutting Principles on Non-Tariff Measures (NTMs) / Non-Tariff Barriers (NTBs))」を活用し、非関税障壁をより迅速かつ効果的に特定し、対処するための仕組みを構築すべきです。
- 最後に、複数国間 (プल्ली) のWTO交渉は、特定分野でより意欲的もしくは新たなルールへ進む意志のあるすべての加盟国・地域に開かれ、WTO原則と整合的なものでなければならず、将来的に多国間合意の構成要素となることを意識して行われるべきです。

ABAC は、APEC 参加国・地域に対し、進化するビジネス・ニーズとビジネス・モデルを反映させるなど、WTO を支え、改革を推し進めるために建設的に関与するよう要請します。ABAC は、WTO 改革という APEC 参加国・地域と共通のコミットメントをすべての当事者にとって適切な制度の体制につなげなければならないと固く決意しています。

APEC ビジネス諮問委員会 (ABAC)

2019 年 4 月